



春の大セミナー2017

5th D-テーブル 2 総評

ジャッジ：浦川(上智 4) 川崎(立教 4)

▶メンバー

貝瀬（武蔵 3）

阿部（慶應 2）

佐宗（武蔵 3）

川松（青学 3）

中村圭（立教 2）

住田（明学 2）



▶議論の流れ（文責：浦川）

ランカーになれるのが一人のみという特徴から荒れやすいD-テーブルであるが、このテーブルに置いては発言のさえぎり等がなく相手の意見を尊重したうえでの議論が行われ、傾聴力と落ち着きのあるテーブルであった。ディスカッション自体は、貝瀬をオピニオンプレゼンターとし『脳死患者の臓器を強制的に臓器移植に使用する』という政策を基軸に議論が行われた。ここでは、主に争点となった3つのアーギュメントについて詳しく記載することとする。

※ジャッジとテーブルメンバーとの間で理解の齟齬がある可能性があるが、ご容赦願いたい。

1. Narrow (45分)

Narrow において阿部が『臓器移植をトピックから規制(除外)しよう』というアイデアを提示。規制すべき理由として、医療論題として臓器移植に関してのみの議論を行うと次第に議論の生産性が遞減していくためという意見が示される(なお、この生産性は医療論題が議論される期間全体に焦点を当てている)。この意見に関する検証を行おうとする阿部に対し、住田・中村・貝瀬の3人が各々のアプローチで検証の必要性に疑問を提示した。その過程で貝瀬が『生産性の有無を各々の経験に基づいた投票により決めよう』という提案をする。ここでいう各々の経験に基づいた投票とは、十分なコンパリを通し良い結論を得た経験の有無による投票を意味する。この提案に対し阿部はテーブルメンバーが各々の阿部のアイデアに関する反論を述べたのちに投票を行うのであれば異論はないとし、それに従い各々が反論を示したのちに投票が行われた。投票結果、阿部の意見は話す必要性がないこととなり普通の Narrow へと戻った。

2. NFC (53分)

Narrow に続き NFC において阿部がアーギュメントを提示。阿部の主張は『現状維持をしたうえで一人以上のターゲットを救うことができるため NFC はない』というものであった。貝瀬・中村を中心に質問が行われ、阿部の意見に関する理解が深められていった。この結果明らかになった彼の主張は次の通りである。

- ① 現状維持した場合：臓器移植の増加傾向により一人以上(A/L/1)の TG が救われる
- ② 政策を試行した場合：1つ以上(A/L/1)の AD を得られる

⇒①と②は一人以上の TG を救えるという点で相違がないため NFC がない

現状と政策施行後が同じであるため NFC がない理由として金銭的無駄・現実の日本政府への業務負担が挙げられた。これに関し詳しい議論はなされなかったが、コンパリにおいて AD=DA となったときに政策を施行しない理由と同じようなものと考えられる。

この意見に対する理解を深める質問と並行してこの意見が本当に NFC を否定しているといえるかに関する質問が行われ、阿部はオブレのスタンスにより話せるか否かが変わるとした。この返答を受け、貝瀬は workability において自身が現状の増加傾向以上の AD を得られることを証明することで阿部に対する反論としたいという提案をする。この提案を阿部が受け入れ議論は収束した。

3. Practicability (47分)

ここでは中村がアーギュメントを提示。『オブレの政策は脳死者及びその家族の選択する権利を奪うものであり、それは違憲に値するため政策を施行できない』というものであった。主な争点となったものはオブレの政策による脳死者及びその家族の権利の剥奪が違憲となるのかというものであった。

貝瀬は死刑のケースを例に挙げ、選択する権利を剥奪する政策も施行することが可能であるとした。これに対し中村が死刑は公共の福祉に反した人の権利を剥奪しているのであり、脳死者の場合公共の福祉に反していないため反論たりえないとした。

続いて、同じく貝瀬が税金を権利が剥奪されている例として提示した。これに対し阿部が税金は憲法に定められる義務であり、違憲であるか否かを論じる上での例示として不適切であると主張。貝瀬は自身の意見が納税の義務自体を反論としているのではなく、税率の変化を国民が定めることができない点を反論としているため反論足りうるとした。中村・阿部を中心にこの反論に対する質問が行われる中ディスカッションが終了した。

▶順位

- 1 位 貝瀬（武蔵 3）
- 2 位 阿部（慶應 2）
- 3 位 中村（立教 2）
- 4 位 佐宗（武蔵 3）
- 5 位 住田（明学 2）
- 6 位 川松（青学 3）

▶選定理由とコメント（文責：川崎）

1 位 貝瀬（武蔵 3）

OP として議論の土台を提示したとともに、全ての話において obj や S を通してテーブルを推進しようとする一貫した姿勢・またその発言を評価しました。テーブルの絶対的リーダーとして有無を言わず引っ張るというタイプではありませんが、常にポーカフェイスで、反論にも冷静に安定感のある介入を続けられるという点は貝瀬くんの強みです。議事進行能力は高いですがコンテンツ面はまだまだ伸びる余地があるので、コンテンツも強化してさらに成長して欲しいと思います。お疲れさま！

2 位 阿部（慶應 2）

最初から最後まで新奇性の高いアイディアを提示し、議論の質の向上に努めていた点を評価しました。阿部くんの頭のキレと論理性は 2 年だけでなく 3 年をも優に凌いでいます。あと一歩足りないのは自分がテーブルを引っ張るんだという「責任感」かなと感じました。事実今回のテーブルでも意見の提示に留まり、テーブルを動かす、推進するという役割は担えていませんでした。強い結論意識と結論に結びつける推進力を高めれば周りからも信頼されてもっと自由にテーブルを動かせるようになると思うので、その点を意識しつつさらにプレパを重ねて欲しいです。アッセンも、期待しています。お疲れさま！

3 位 中村（立教 2）

コンスタントな介入とアーギュメントを出し意見を提示したことを評価しました。テーブルや各々の意見 (obj) をあるべき方向へと動かすという役割は担えなかったため 3 位となりましたが、時折挟む口頭でのカンファメは質が高いものがありました。阿部くんのナローアーギュを受けてマンドートコンバリを行うオピニオンシートを提案するなど、中村くんの持つ潜在的な適応力の高さは、今後さらにブレバをしていけば武器になり得るでしょう。5th D- テーブルに満足することなく、さらに高みを目指してください。お疲れさま！

4 位 佐宗（武蔵 3）

上位 3 人に比べて介入量の差が大きく、4 位となりました。しかし佐宗さんの強みである第三者的な立場からのカンファメは、このテーブルにおいても何度か力を発揮していました。きれいなチャートとカンファメはテンポの早いディスカッションやごちゃった場面においては活躍の機会が多いですが、今回のようにアーギュが出てもある程度まとまりながら進み、かつ他にトリートする人もいる状況では他の役割を見つける必要があります。アッセンまでの数ヶ月、自分の強みをさらに伸ばしつつもさらに手札を増やすため、様々なブレバに挑戦してみてください。お疲れさま！

5 位 住田（明学 2）

時々発するダウトやカンファメには光るものがありましたが、発言量の少なさから 5 位となりました。懐疑的な視点と先輩相手にも物怖じしない性格は住田くんの良さですが、自分が興味のある話とない話の際の熱量の違いはもったいないと思います。ポテンシャルは高いのでブレバ次第でいくらでも伸びると思います。がんばれ。お疲れさま！

6 位 川松（青学 3）

介入が限定的であったため 6 位としました。Q や C の切り口はいいのにそこから自分の流れにもっていかずもったいない印象が、見ていて歯痒かったです。話の終着点を常に意識し、自分の一回の介入で最後まで完結させる練習を行うなどして、そのいい切り口を活かしてあげてください。アッセンでのリベンジ期待してます。お疲れさま！

▶ ジャッジからのコメント

《浦川》

現役の皆さん、春セミお疲れ様でした！冒頭でも書いたようにこのテーブルは意見の遮りがなく落ち着きがあり、大変好感の持てるものでした。しかし、一方で落ち着きすぎていたのではないかと思うところもあります。自分の意見が 1 度反論されたり、他人がそれっぽいこと言ってたらそれにすぐ納得して折れ

たり傍観してませんでしたか？

NFC での A/L/1 に関する議論での停滞はなぜ起きているのか？他の表現の仕方は、カンファメの仕方はないか？praca で行われたエクセプションの切りあいはいくつも必要だったのか？等々。常に全てを疑ってください。そして、自分のテーブルでの立ち位置は何なのか、自分だけのディスって何なのか、考えてみてください。ふわふわしたコメントですが、こういう意識の問題がこの競技の核だと自分は信じてます。まだまだ伸びると思うので、皆さんのアッセンでの活躍を期待してます。

《川崎》

皆さんお疲れさまでした！5th D- とは思えない落ち着いた良いテーブルだったと思います。

ただ結論意識が弱かったのがもったいなかったなあとも思いました。例えばナローで O/T はもう生産性がないから別のトピックにしようという意見が出たけど、トピックにレギュレーションをつけるかどうかの話をすること自体も話が長引いたらそれって生産性皆無だね、だから制限時間を設けて話そう…とかっていう S を打つ人がいなくて結果 45 分かかるとか、せっかくナローアーギュで vote の結果まだテーブルメンバーの大多数は O/T に関して満足いく結論が得られていない、しっかりコンパリのプライオリティを置いていないってことが共有されたのにその後の NFC やブラカのアーギュはいつも通りそれぞれ 50 分近くも時間をかけて結論も出せていないとか。「結論を出す」という行為には、通常のコンパリでは最低でも 2 つのロジックが必要で、それぞれのロジックには少なくとも平均 30 分以上の時間がかかって…ということを見ると、NCF やブラカのアーギュの中で「議論」をしない限り、今回のテーブルのペースで結論を得ることは難しいですね。

春セミを通して、時間配分を意識している人が全然いないな、と感じました。「やばいもう残り時間少ないから〜」って言う人はいたけど、「結論を得るためには少なくとも AD>DA の検証に 30 分以上は必要で、今あと 45 分しか残ってなくて…」みたいに残り時間から逆算して、さらにそれをみんなに共有してテーブルを進めていくような人は私は見ませんでした。(いたらごめんなさい)

よりよい結論を出すための一つの要素として、理想的・そして現実的な時間の使い方も考えてみて欲しいです。それが出来た人は、ぜひハンドリングにも反映させてみてください。きっともって「生産的」な議論ができるんじゃないかな〜と思います。

長々と読んでくれてありがとう笑 そして、アッセンはもう始まっています。春セミで見つけた各々の課題はアッセンまでにしっかり潰し、さらに自分の強みは武器に昇華させて、一回りも二回りも成長した皆さんを見るのを楽しみにしています！